今月の読み物

「見たり、聞いたり、探ったり」No.295

通算 No.446

青　木　行　雄

「福澤諭吉」先生と「青の洞門」No1
大分県・中津市・本耶馬渓町
（2024（令和６）年７月３日１万円札肖像変更）

2024（令和６）年７月３日、「福澤諭吉」肖像の１万円札が「渋沢栄一」に変更されて新紙幣の発行が開始された。40年にわたって１万円札の「顔」を務めた福澤諭吉は、渋沢栄一とその役目を交代することになった。記念すべき出来事である。

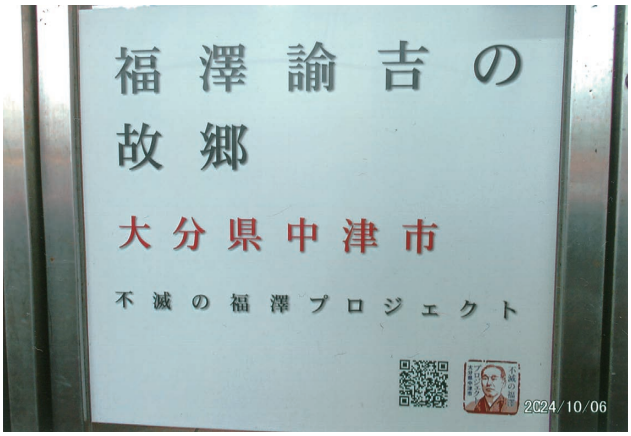
肖像交代に合わせ、中津市は「不滅の福澤プロジェクト」と名付けた事業を展開。JR中津駅に福澤の１万円札をデザインした巨大なモザイクタイルアートを設置。また福澤の生涯を描く市民ミュージカルを10月に上演した。これからも福澤の功績を後世に伝え、故郷の中津を全国に発信する。肖像交代をきっかけとして福澤諭吉の業績をもっと多くの人に発信したいということでもある。

「禅海和尚（ぜんかいおしょう）」が30年にもわたり苦労して掘（ほ）ったという、「青の洞門」の上部は岩盤におおわれた「競秀峰（きょうしゅうほう）」と言う名勝地がある。

この奇岩名勝地を将来永遠にそのままの姿で残したいと「福澤諭吉」先生は明治27年に買い取り、ナショナルトラスト運動をおこした。故郷を大事に思った先生の感動物語である。

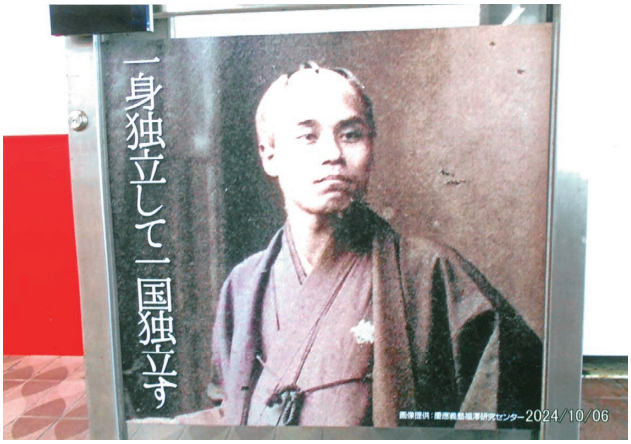
この度中津市民が思いをこめて立ちあげた市民ミュージカル「福澤諭吉翁物語」を公会堂で公演したが、一般市民の公募で80人程集め練習を重ねた。成功すれば、東京でも公演したいと関係者は頑張っている。ふるさとを愛する１人として、おおいに応援したいと思っている。

福澤諭吉先生が感動し、永遠に残したいと言う場所、「競秀峰」にトンネルを掘る感動物語は次号に記



大分県JR中津駅構内に大型のタイルプロジェクトが見られる

大型の１万円札壁タイルに作られている。2024年７月３日肖像交代に合わせ、「不滅の福澤プロジェクト」として展示された。（タテの長さ2.1m　ヨコの長さ4.5m）



若い頃の福澤諭吉先生の肖像。共に展示されていた

大型壁画にこんなアートも飾られていた。上が天井面。
画像提供、慶應義塾福澤研究センター

したいと思う。

この「青の洞門」も菊池寛の小説で大正八年に発表された、題名「恩讐（おんしゅう）の彼方に」の作品で一躍有名になった。この名勝地耶馬溪の青の洞門の由来にかかわる恩讐を越えた人間力への共感を描いた、現実を受け入れると共に人間的な不正に対する良心の道徳意識から行動をおこす物語も感動である。次号をお楽しみ下さい。

福澤諭吉先生について

福澤先生は、1835（天保５）年に大阪の中津藩蔵屋敷で、13石２人扶持の下級武士福澤百助の次男として生まれた。１歳６ヶ月の時父と死別し、母子６人で中津に帰郷した。貧しくとも信念を持った少年時代を過ごし、14、５歳より儒学者白石照山の塾に入った。1854（安政元）年、19歳の時、蘭学を志して長崎に遊学す。翌年からは大坂の緒方洪庵の適塾で猛勉強に励んだ。

1858（安政５）年には、藩命により江戸の中津藩中屋敷に蘭学塾を開いた。これが慶應義塾のはじまりである。西洋の語学力と知識をたくわえたいと考えた先生は1860（万延元）年「咸臨丸」に乗り込み渡米する。以後、ヨーロッパ諸国も歴訪し、社会の制度や考え方などに旺盛な好奇心で見聞を広めていった。その後「西洋事情」「学問のすゝめ」「文明論之概略」などを世の中に出した。

福澤諭吉先生略年表（不滅福澤プロジェクトから）

1835（天保５）年　（０歳）　大阪の中津藩蔵屋敷で末子として誕生
1836（天保７）年　（１歳）　父百助の死去に伴い母兄、３人の姉と共に中津に帰る
1854（安政元）年　（19歳）　蘭学を学ぶため長崎へ。中津を出る
1855（安政２）年　（20歳）　大阪の緒方洪庵の適塾入門
1858（安政５）年　（23歳）　藩命により江戸で蘭学塾を開く
1860（万延元）年　（25歳）　咸臨丸でアメリカへ
1861（文久元）年　（26歳）　中津藩士の娘、錦と結婚
1862（文久２）年　（27歳）　幕府の使節として欧州を廻った

禅海の像。ノミにて穴を掘る姿を像に

青の洞門を見学する観光客

1867（慶応３）年　（32歳）　幕府の軍艦受取委員の随員として再渡米
1868（慶応４）年　（33歳）　自ら教えていた塾を慶応義塾と命名
1869（明治２）年　（34歳）　福澤屋諭吉の名で出版業に着手。以後著作権の確立運動にも従事する
1870（明治３）年　（35歳）　中津に帰り母を東京へ
1871（明治４）年　（36歳）　中津市学校の開校に尽力
1872（明治５）年　（37歳）　「学問のすゝめ」初編出版
1874（明治７）年　（39際）　三田演説会を組織する
1875（明治８）年　（40歳）　三田演説館会館完成
1882（明治15）年　（47歳）　「時事新報」創刊
1892（明治25）年　（57歳）　北里柴三郎の研究を助成するため、伝染病研究所を設立
1894（明治27）年　（59歳）　墓参のため、長男と次男を伴って中津へ帰郷。耶馬溪の「競秀峰」を買い取る
1898（明治31）年　（63歳）　「福翁自伝」脱稿。脳溢血（のういっけつ）を発症し、リハビリで回復する
1899（明治32）年　（64歳）　「女大学評論・新女大学」刊行
1901（明治34）年　（66歳）　脳溢血（のういっけつ）を発症し、２月３日永眠す
　　〜
1984（昭和59）年　　壱万円札の顔に
　　〜　40年間
2024（令和６）年　　７月３日　壱万円札肖像交代す

令和６年10月20日　記

参考資料

青の洞門マップ（中津市発行）

不滅の福澤プロジェクト（中津市発行）